

コミュニケーション指導実践シート

対象	小学部3・4年生	教科・領域等	自立活動「音・リズム」
場所	教室	学習形態	集団学習

1 児童の実態

全員が知的障害と肢体不自由を併せ有しており、3年生の男子1名は視覚障害も併せ有している。痰の吸引や経管栄養などの医療的ケアを要する児童や、てんかん発作のある児童、筋緊張の強い児童、気持ちのコントロールに配慮の要する児童など、体調管理や姿勢、安全面において配慮の必要な児童が在籍している。

2 児童の目標

- ・友だちの鳴らした太鼓の音を、触覚や聴覚、視覚から感じ取ろうとすることができる。
- ・太鼓を鳴らした友だちに対して、感じた気持ちを表現することができる。

3 実践

<指導の手立て>

- ・児童の実態に応じた楽器のたたき方と並び順を設定する。
- ・姿勢や車いすの位置、たたく場所を配慮し、友達への意識を向けやすくする。
- ・音の止む時間を設け、音を鳴らした後のやりとりに向けた時間をつくる。
- ・友だちの表現や反応をT2以降の教員が言語化して伝える。

- ① 1人ずつ順番で太鼓の音を鳴らす。
- ② 友達の鳴らす音やリズムを聞く。
- ③ 友達の鳴らす様子や振動、聞こえる音に対しそれぞれの方法で気持ちを表現する。
- ④ 4人で同時に同じ太鼓の音を鳴らす。
- ⑤ 友達の鳴らす音やリズムを、聞いたり触れたりして感じる。
- ⑥ 友達の鳴らす様子や振動、聞こえる音に対し、それぞれの方法で気持ちを表現する。
- ⑦ 本時の次の実践では、事務職員に授業に参加を依頼し、友達以外の他者と音を共有する活動に取り組んだ。



4 児童の変容（成果：○、課題：△）

○自分で音を鳴らすのみでなく、周りの友達や教員の活動にも意識を向けることが増えた。
△児童の実態により音の鳴らし方が異なるため、どのような教材・教具の工夫を施して音の鳴らし合いに取り組むか等、児童が他者と関わる場面の設定に向けた環境の工夫が課題となった。